

届けの乱用に警告

従来、バラバラの役場住民届出窓口が住民基本台帳法の施行で一本化されているが、これによって、自動車の運転免許を得たいなど、届出の乱用と思われる届出証明書の請求……県外への転入届にも選挙権・国民健康保険被保険者資格・その他いろいろの権利・義務を行なう場所が移っていくことに留意を。

消防力の対策を

村の消防団員の中から出かせぎ者があいつぎ、消防力はいま危機に直面している。

12月1日現在の調査では定員三百五十名のうち、出かせぎ者百五十一名(機械係六十一名を含む)。したがって現在百九十九名と弱体化している。

旧団員の協力を得るなど地域で策の検討を。

東由利村報

No. 126 1968・1・1

発行 秋田県東由利村役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部8円) 昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利農協

売渡五万俵突破祝う



議長から来賓祝辞。小林農協土地改良部長の記念講演。宣言。本村大台出身の民謡歌手浅野和子らによる演芸などがあり、来る年へのがんばりを誓いあった。

【写真は東由利農協の記念式】

全郡中学校スキー大会

第11回全郡中学校スキー大会が来る1月13日本村大平スキー場(下吹)



明治百年を迎えて、おめでとごうございませう。

これが実現の第一歩をふみ出す。これが新年の日の祝いとす。これが新年の日の祝いとす。これが新年の日の祝いとす。

爆発的教育ムードを

全般的に村財源の面から消化し得なかつたことは誠に遺憾にたえません。本年は定時制高校の改築さらに給食の問題、学校統廃合



明けておめでと

ち他人とは対話するけれども、自分と対話する機会をもたないが、ないこともない。宿酔の朝などは「酒は止めた」と自分に言った経験は、おたがいになくないでしよう。

年頭のあいさつ

上を向いて進もう

村長 小松 栄 男

時そのものは、暮れも正月もなく流れ動いて行きます。吾々が、年頭という「機」をつくり、自分と対話をして生活のくぎりときっかけを考へることが大切で、この意味で正月がめでた

みますと、誰しも悔いのないものはありますまい。人間ですから悔いのあるのが当然ですが、大事なことはつまらぬ悔いを新年に持ち越さないことです。年頭に当って「よし、今年はやるぞ」と心氣を一新することです。私は、昨年中は就任日浅いたため、不慣れの点が多かったですが、今年は皆様の御協力のもと東由利村発展のために、多にがんばる覚悟でおります。

43年度国民健康保険

保健婦の設置を準備

「命あつてのものだね」という諺があるが、村の医療行政のいかんは、即われわれの生命の消長をも左右する。

これは、村が国民健康保険事業をはじめから十周年にあたる。ここで、最近数年の実態にスポットをあてながら、今後の動向を考えてみたい。

いま、国内の各方面から火の手が上がり議論されていることに、健康保険の改革試案がある。

一口に健康保険と呼ぶものの中には、国家公務員・地方公共団体の職員で構成する共済組合形のもの。会社員等の健康保険。日雇労働者健康保険。農民・自営業者などの国民健康保険などがあり、大別される。

このように類似した階層の人どうしで集団をつくり、それぞれ集団ごとに所得に応じた費用を負担し合つて、集団内の被保険者や組合員の医療給付費にあてられている。

しかし問題は、それら個々の集団間に横たわる所得の格差である。所得の低い人は分に應じた病気を、というわけにいかず、むしろ比率にして五〜六倍の病気をもっている実情である。

国道舗装など協議

本荘市との議員懇談会

12月15日本荘市との第三回議員懇談会が本荘市親月荘で開かれた。

この懇談会は、両市村に共通の諸問題を話し合い、解決にみちびこうとするもので、国道一〇七号線中本荘一横手間の未舗装区間、大沢一板戸山内一太築間の早期舗装に強力な運動を続ける。この完



明けておめでとごうございませう。

るよう期待する次第です。東由利村の命のかたは米造りです。年々労働力は都会に集中し労働力不足は避けられない事実です。情勢は今後日に月に変つてまいります。これに

バスに乗り遅れるな

新年の課題

議長 佐藤 与吉郎

人には、長所をとり入れようとするよりも短所のみを採る悪い癖があります。いま使っている耕転機をどうするか、さらに借金を

の問題等重要施策は山積しております。

学校経営の基本的態度としては、①地域に立脚した経営の確立を期する。②明るく生き生きとした学園の建設を図る。③教師のたゆまない研

さん重視する。④教育施設整備の充実

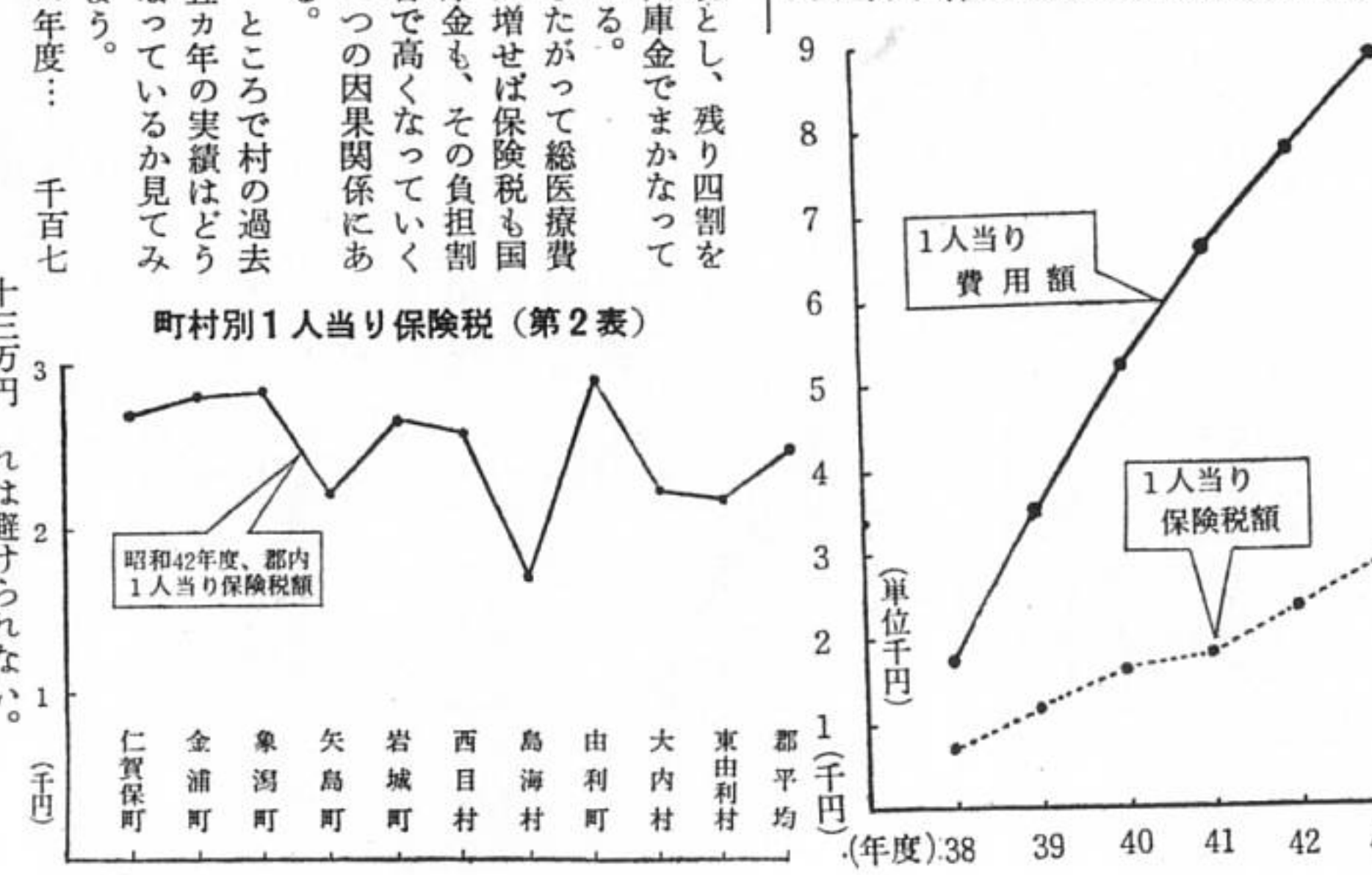
と、その活用を図る。⑤教育活動の計画化、効率化活動化を図る。以上五点を基本として

まいると思います。

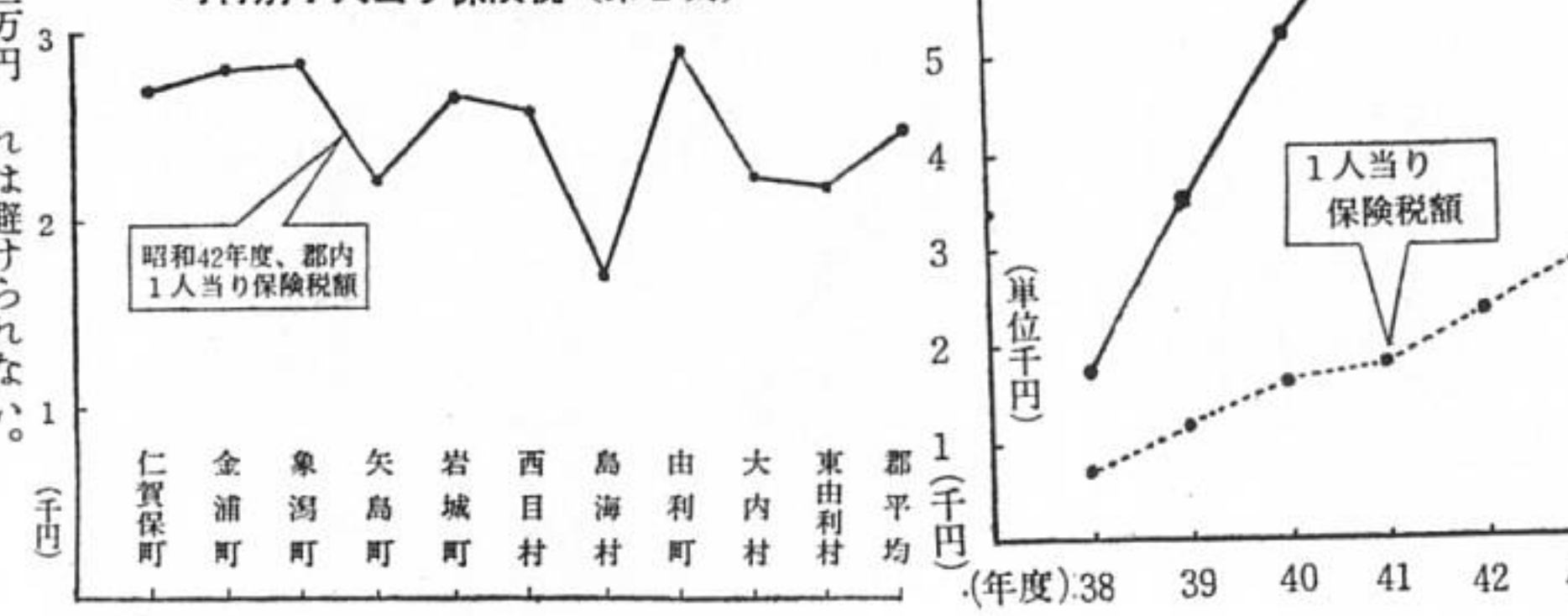
また社会教育は村造りの一

大要素でもあり青年会、婦人会を主体にして新しい地域社会建設のために、公民館活動の活発化を推進して健康で豊かな教養人の育成。明るく楽しいそして美しい住みよい郷土を造るに共に、村の総合行政と連けを密にして自主性創造性、協調性を鼓舞し独特の親しみと和合と愛情のある村を学校、社会、家庭が一体となり新村長のもとに新しい正しい心の姿勢をとりながら爆発的な教育ムードを推進してまいります。村民各位の絶大な御協力を念願して年頭の所感といたします。

1人当り国保費用額と保険税(第1表)



町村別1人当り保険税(第2表)



39年度：千五百九十二万円
40年度：二千六百六十四万円
41年度：三千二百二十四万円
42年度：三千六百五十二万円
と年々上昇を続け五年間で三倍強にはねあがっている。(42年度は見込み)
これは、四十年一月から、世帯主、世帯員に対し七割給付を実施したこと起因するものが第一。

また、被保険者一人が年平均何回医者にかかったかという受診率が、三十八年度一・六八回、四十二年度では二・八二回に達している。

しかし今後なお、三・五回程度までは年ごとに上昇すると言われている。

さらに、保険でかかれぬ医療の撤廃で年々開発されている新薬の薬価などによる一回あたりの医療費が高くなつたことがあげられる。

費用の増こう 避けられず

国保税の第4期

増すのはつらいなど事情がありましよう。しかし、つづきにソロバンにのせて見ると借金など苦にする計算にはなりません。

自分の田は自分で始末すればよい。これまでで人がなみの作柄だつたではないか。

という人自体、米造りの方法がずい分変つてきています。苗代の管理、耕転の仕方、馬鞍機では浅堀りでだめだ、馬耕にかざる。こう言っていた

一月の納税

村・県民税第4期

